

令和5年度 宮城県泉高等学校 学校関係者評価

1 本年度の重点目標

<p>1 学習指導(確かな学力の育成)</p> <p>(1) 基礎・基本の定着確認と、生徒の思考・判断・表現力を高める授業実践により、確かな学力の向上を図る。</p> <p>(2) 教育系ICTプラットフォームを活用しながら、生徒の興味関心を広げ、自学・自習の主体的学習による家庭学習習慣の確立を図る。</p> <p>2 生徒指導(豊かな人間関係と社会的に自立する力の育成)</p> <p>(1) 基本的な生活習慣や規範意識の確立と実践により、事故や盗難、いじめ等のない安全安心な学校づくりに努める。</p> <p>(2) 部活動、学校行事、生徒会活動、社会貢献活動等に積極挑戦させ、他を思いやる心、勤労奉仕の精神を育み、共生社会に生きる生徒の資質を高める。</p> <p>3 進路指導(自らの生き方を考え主体的に進路を選択する態度の育成)</p> <p>(1) 自己理解を深め、社会における自己の在り方・生き方を探求する「志教育」を推進することで、自己実現を諦めない強い意志を養う。</p> <p>(2) 生徒の自己実現のために、3年間を見通した系統的・組織的な進路指導の推進に努めるとともに、全教員が最新の進路情報を取り入れる研修の機会を設ける。</p> <p>4 保健衛生・安全教育・防災教育(命を守る力と共に支え合う心の育成)</p> <p>(1) 心身の健康保持のため、積極的にSCやSSWと連携し、一人で抱え込まない体制を作る。</p> <p>(2) 防災教育を通して日常の安全点検や避難訓練の従事宇を図り、地域社会と連携・対応できる学校を目指す。</p>
--

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	1 基礎・基本の定着	A	みやぎ学力状況調査の結果から、学習における基礎・基本は概ね身に付いているといえる。単元を見通した学習目標を生徒と共有し、生徒が主体的に学習に取り組む力を引き続き高めていく。	A	B
	2 授業の質の向上	B	生徒の授業理解度は目標にやや及ばなかった。1年生の授業理解度は昨年に比べて上昇している。今年度はICTを活用した授業について研究授業を行った。次年度以降も授業改善に努めていく。	A	B
	2 家庭学習習慣の確立	B	家庭学習の時間の確保は今年度も課題となった。スマホ利用時間が年々増加傾向にある。他分掌や学年から協力を得て、スマホ利用の指導とともに、Classiを活用した学習時間の可視化に取り組みたい。	B	A
学校関係者評価委員会における意見		<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間の伸び悩みは昨年度からの課題。生徒の学習意欲を喚起するためには、キャリア教育の充実や学習目的・学習方法の指導が必要。 ・ICTが効果的に活用されている。 			
生徒指導	1 基本的な生活習慣の確立	A	「基本的な生活習慣の確立に関する指導」では、保護者の89%(昨年度80.2%)、生徒の89.5%(昨年度83.6%)が肯定的評価をしており、概ね達成できたもの考える。今後も基本的な生活習慣が身につくように努めたい。	A	B
	2 規範意識の醸成	B	3年ぶりに金銭の盗難が1件発生した。盗難被害への対策として、学年集会の実施や登校日における普通教室(不在時)の施錠を指導している。今後も生徒の防犯(物品管理)意識の向上につなげていきたい。	B	B
	3 特別活動への積極的な取組	A	生徒・保護者ともに90%以上が学校行事や生徒会活動、部活動が活発・有意義に行われていることに肯定的評価をしている。生徒や保護者、地域や時勢のニーズに応えながら、今後につなげていきたいと考える。	A	B
学校関係者評価委員会における意見		<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣について、学校、家庭内ではできてきているようなので、学校周辺の地域へ意識を拡大させるような指導も必要。防犯対策については、規範遵守の呼びかけだけでなく施錠の徹底などの方策も継続が必要。身近な社会貢献として挨拶の励行を図ってほしい。 			

進路指導	1 自己理解と志教育の推進	B	進路指導4の「進路目標の明確化に向けた適切な指導」は、保護者83.1%、生徒89.7%が肯定的評価であった。社会人講和や夢ナビライブ参加などを通して、早期の自己理解と進路目標の設定を目指した指導を継続したい。	B	B
	2 系統的・組織的な進路指導の推進と研修の設定	B	進路指導1の「学校は必要な進路情報を提供している」は、保護者88.2%、生徒94.2%が肯定的評価であった。各学年における進路だよりの発行や保護者進路説明会などを通しての情報提供を継続したい。	B	B
	3 高い進路目標を達成できる柔軟な思考と強い意志の養成	B	進路指導3の「学力向上をはかり、講習や模試を十分に提供している」は、保護者87.5%、生徒93.1%が肯定的評価であった。模擬試験への生徒の取り組みは大変良好であった。また、各学年で模試分析会を行い、生徒の学力把握に努めた。今後も継続したい。	B	A
学校関係者評価委員会における意見	<ul style="list-style-type: none"> ・「なぜその大学に行くのか」という目的を明確にさせる指導が必要。 ・「探究」の授業をとおして生徒の関心を喚起し、その関心に基づく進路選択を後押しするような取組も必要。 ・外部講師や卒業生を招いての進路検討会を早期から実施することが効果的だと考える。 				
	1 健康保持と体力増進	B	学校評価において「学校は生徒の安全や健康管理に積極的に取り組んでいる」では、保護者の87%、生徒の92%が肯定的評価をしており、概ね達成できたもの考える。今後も健康の保持増進に努めていきたい。	B	A
	2 交通安全意識の高揚と事故発生の未然防止	B	「交通安全教育」では、保護者の91.5%(前年80.2%)、生徒の91.8%(前年82.1%)が学校の取組を肯定的評価しており、概ね達成できたもの考える。ただし、交通事故などの減少に繋がっていないので、今後も継続的指導が必要。	B	B
	3 防災教育と避難訓練の充実	B	「防災訓練などを通して災害、非常時の避難方法や連絡方法を伝えられている」では、保護者90%、生徒90%が肯定的評価をしており、概ね達成できたもの考える。今後も災害に対する意識を高めていきたい。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	<ul style="list-style-type: none"> ・事件事例や損害賠償額などリアルな数値を使った教育を警察側と協力して実施してほしい。 ・交通法規に関する知識の欠如の可能性もあるので、その点に配慮した指導・教育も検討してほしい。 ・語り部の話を聞く機会などをもうけ命の大切さを考えさせてほしい。 				